

令和7年度世田谷区市民活動支援事業

事業名：マイクロ・コモンズ・スチュワードシップ

協働する担当課：みどり政策課／庁舎管理担当課／都市計画課／公園緑地課

2025年6月26日（二次選定会）

大坪義明



世田谷ポートランド都市文化交流協会

本事業は、区民の「参加と協働」により、
区のみどりを保全・創出するための活動であり、
草の根のグリーンインフラ^{*1}整備活動です。

地域の小規模な自然資源を、
市民自らの手で管理・利活用（「コモン化」）することを目指します。

量・質・協働の三位一体の行政方針である「世田谷みどり33^{*2}」に則り、
特に質の向上と協働の促進に資するために、
本事業を提案するものです。

***1 グリーンインフラ**

自然を活用したインフラ整備全般を指します。

***2 世田谷みどり33**

「みどりの将来像『多様なみどりが笑顔をつなぐ街・世田谷』の実現に向けて、みどりの量の確保、質の向上、区民との協働に取り組み、みどり率33%の達成を目指す」世田谷区が掲げる政策の名称です。

3年目となる今年度事業の位置づけ

マイクロ・コモンズ・スチュワードシップ
総仕上げ
記念イベント（？）

令和8年度

スチュワードシップ
素案策定

令和7年度

令和6年度

マイクロ・コモンズ
MC事例の開拓と実践
制度設計のための材料を集積

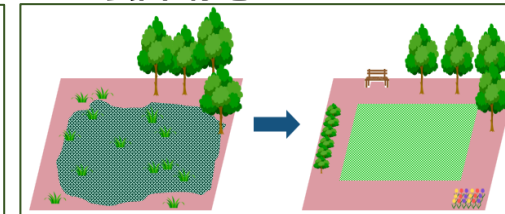
令和5年度

マイクロ・コモンズ・スチュワードシップ
基盤の確立
初年度の集大成…シンポジウム

MC1: 道路植栽



MC2: 公園・緑地



MC3: 新庁舎



マイクロ

微小な、超小型の を表す接頭語

コモンズ

狭義には共有地・共用地を意味する。

特定のコミュニティに属する人々が自由に利用できる空間や資源をはじめその共用の仕組みやコミュニティのあり方等、今日では様々に用いられる。

スチュワードシップ

《スチュワードは執事・財産管理人の意》

他人から預かった資産を、責任をもって管理運用すること。受託責任。

上記の単語を組み合わせた造語であり、「区民自らが共同管理・利活用する小さなみどりをつくるしくみ」ほどの意味です。参照：グローバル・コモンズ・スチュワードシップ(2020年～東京大学GCS)／グリーンストリートのスチュワードシップ制度(オレゴン州ポートランド市の取り組み)

MC1

歩道（公道）の植栽部分

現状で多くみられるツツジ等の
単種の植えつぶし



花壇や低木・草本の混植

MC2

小規模緑地・街区公園など

閉鎖（非公開）であったり
手入れの行き届かない場所



コモン

MC3

新庁舎の屋上庭園と広場

公共施設の中の公共施設
シンボリック空間



コモンの管理
他の公共施設への波及効果

三つの類型で実践・観察

本事業の最終目標は、（…みどりをつくる）**しくみ作り**ですが、これまで2年間かけて行ってきたのは、主に（小さなみどりを）**区民自らが共同管理・利活用する場の発見・創出と実践観察**が主でした。

なお、MCは小規模なスポットであって、歩道や公園の全域を対象とするものではありません。しかしごく一部分であっても、その場が他とは違う魅力を放っていれば、生活に潤いが生じることでしょう。たとえば「ウォーカブルな道路（歩いて楽しい道）」というのは、そうしたものを指すのだと思います。また地域に根差した生活者が関与することで、それはより魅力的なものになるのだと思います。

今後もMCの場づくりや観察は続けながら、制度設計にとりかかります。

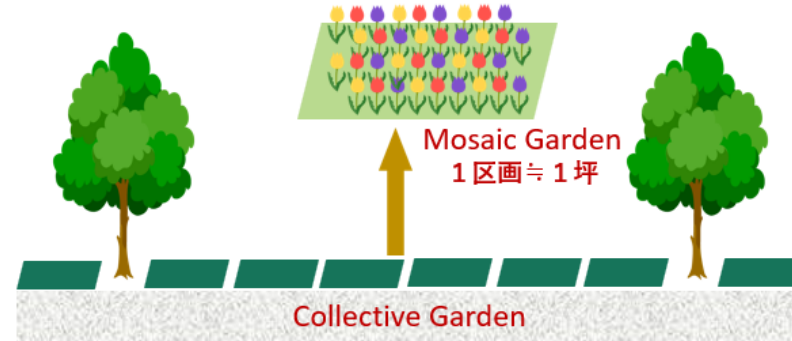
MC1(道路植栽)

MC1

歩道（公道）の植栽部分

現状で多くみられるツツジ等の
単種の植えつづし

花壇や低木・草本の混植



チーム世田谷駅前花壇



2025.1.14 撮影

からすやまボタニカルクラブ（粕谷・区道はっけんどおり）発足



2024.6.5 植付



2024.11.19 植付

前年に実施したMC3・区民ワークショップへの参加者がリーダーとなり『みどりと花いっぱい協定』を締結し、活動スタート(左)

MC2(公園・緑地)

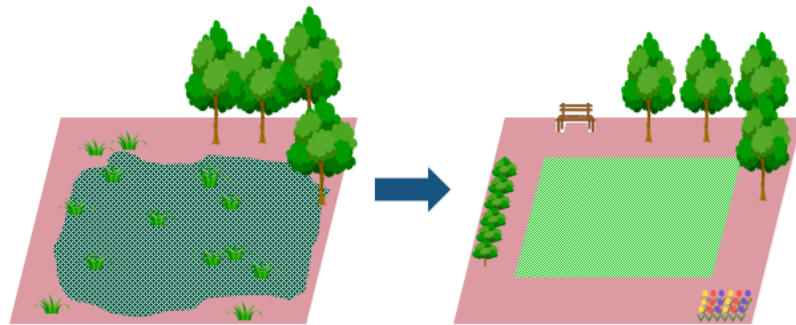
MC2

小規模緑地・街区公園など

閉鎖（非公開）であったり
手入れの行き届かない場所



コモ



区立峰松緑地での活動から



北烏山五丁目広場



北烏山五丁目広場ひろばづくり通信第6号

世田谷落ち葉ひろいりレー2024の会場として整備活動を実施、同日午後のMC3区民ワークショップともタイアップする(左)

新設中の広場の一部に、有志が管理する花壇スペースが誕生(上)

MC3(新庁舎)

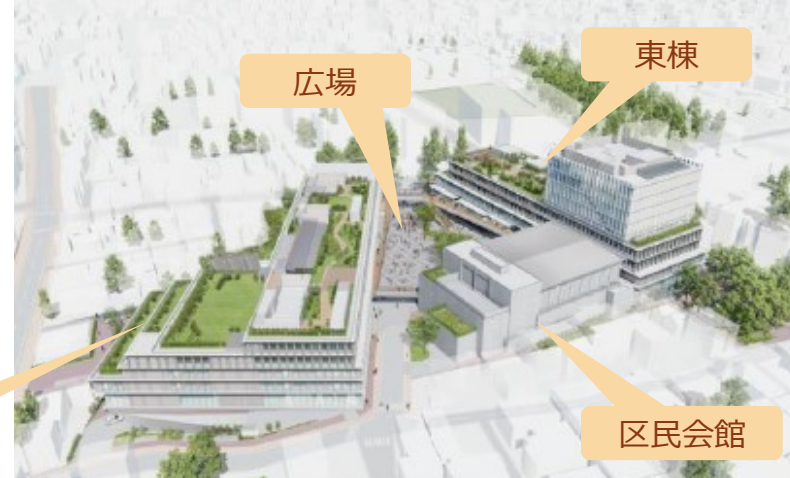
MC3

新庁舎の屋上庭園と広場

公共施設の中の公共施設
シンボリック空間



コモンの管理
他の公共施設への波及効果



新庁舎の屋上庭園の未来を描こう！



2023.10.29

庁舎管理担当課の協力の下、2年続けて区民ワークショップを実施

1年目は、グリーンアップサイクルプランターへの苗木植付なども実施(上)

2年目は1年目の成果である東棟花壇スペースについて検討(左)



新庁舎の屋上庭園の未来を描こう！ワークショップⅡ
(2024.12.15)

MC3(新庁舎)広場へのグリーンアップサイクル・プランター設置

グリーンアップサイクル

GREEN UPCYCLE

「燃やさない」という選択で、新たな価値を。

世界的に深刻な問題となっている大量の衣料廃棄物。
私たちにできることは、
まずは捨てないで、長く着る。着回す。

それでも残ってしまうものは、誰にも着られなくなった服。
一度も着られなかった服。
服にすらならなかった製造工程で出る端切れや残布…。

日本の衣料廃棄物だけでも年間50万トンを超えると推計されています。
そのうち焼却・埋め立て処分されるのは90%以上。^(*)
特に現在の服の主流である混合素材は、
布を単一素材に分解することができないため、
燃やすか埋めるしかないのです。

燃やしてしまう…

燃やすとか埋める以外に、
暮らしの中でもう一度生かすことはできないのだろうか？

古着の回収システムを活用し独自設計の製造技術を使って
新たな素材を創り出しました。
さらに、その素材をさまざまなカタチにして
価値あるモノとして再活用していきます。
これがグリーンアップサイクル。

理解・賛同していただけるみなさんと
グリーンアップサイクルを使って
新たな価値を創造していきたい。
グリーンアップサイクルプロジェクト、始めます。

参加してください。
活動の輪を広げたい!

(*) 環境省「令和2年度ファッションに関する調査結果」(ファッションと環境)「環境」(調査) (2021年3月)



グリーンアップサイクルは、大量の衣料廃棄物をゴミとしないため加工し、新たな素材として生まれ変わらせた(アップサイクル)、フェルトに似た新素材です。

プランター素材としての有用性(透湿性・対候性等)は、1年目のワークショップでの実験からも明らかです(継続的に経過観察中)。

プランターの課題

① 支持体の強度等

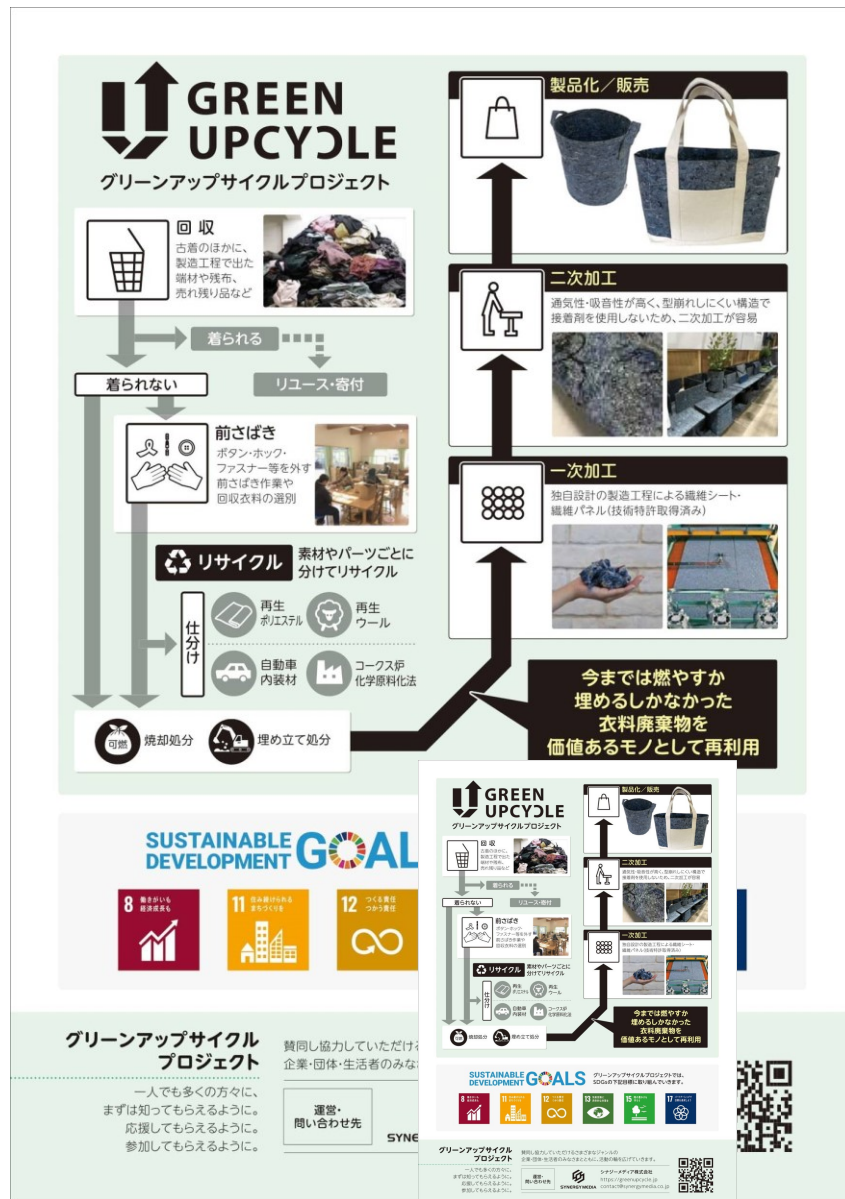
プランター素材自体は軽量だが、苗木・用土の重量は相当なものとなり、支持体の強度、移動を容易にする丈夫なキャスターの装着が望まれます。

② 広場への設置

そもそもは、プランターでみどり率を現行の34%から35%に1ポイント引き上げる(樹冠1m²×200基)ことを目論むものです。

このため、世田谷区本庁舎等における区民利用・交流拠点施設事業運営委員会などの場でも、議論していただく必要があります。

MC3(新庁舎)広場へのグリーンアップサイクル・プランター設置②



経過観察中のグリーンアップサイクルプランター。

支持体が脆弱であったり、重すぎたりいずれも問題がある。試作と設置のプロセスが必須です(上)。

クラウドファンディング目安

7月～9月末
専門家のプロジェクトチームにより、「プランター設計」および「プロタイプづくり」を行う。
あわせて実証実験でプランターを設置してくれる商店街等との調整*を行う。

* 二子玉川商店街協力店舗の軒先、二子玉川エリアマネジメントが運営管理する空間、現在グリーンアップサイクルの主旨に賛同し古着回収を実施している駒澤大学などの大・中学校内などを想定する。

10月～12月
クラウドファンディング実施

1月 プランター製造

2月 プランター設置

先行事例との整合を図る

区の「みどりと花いっぱい協定」や、都の「東京ふれあいロード・プログラム」(都道で適用)などの先行事例との整合を、常に念頭に置く。

最適策を考える

やみくもに新制度を模索するのではなく、
現行制度との併用／現行制度から新制度への変更など、
いくつものプランから最適策を見出す。

現行制度への貢献

「みどりと花いっぱい協定」については、制度のPRや団体の活動状況の告知などの面で、改善に寄与できる。

事業を通じて、何かしらの貢献ができるよう、努力したい。